

岡山県歯科医師会

糖尿病医療連携セミナー

日 程

座 長 居樹 秀明

19:00 開 会 会 長 酒井 昭則

19:10 講 演 講 師 中川 種昭 先生

20:45 質 疑

21:00 閉 会 専務理事 大嶋 敏秀

□ 演 題

「歯科からアプローチする生活習慣病
～歯科の持つポテンシャル～」

□ 日 時

平成 28 年 7 月 2 日 (土)

19:00 ～ 21:00

□ 会 場

岡山県歯科医師会館 5 階大ホール

■当日、以下のものをご持参下さい。

1. プログラム
2. 日歯生涯研修事業 IC カード

糖尿病医療連携を担う医療機関

「慢性合併症治療（歯周病）」登録認定研修会

一般社団法人 岡山県歯科医師会
岡山県糖尿病医療連携推進事業

【 講 演 】



歯科からアプローチする生活習慣病 ～歯科の持つポテンシャル～

慶應義塾大学医学部 歯科・口腔外科学教室教授

なか がわ たね あき
中 川 種 昭 先生

【 抄 録 】

口腔は、皮膚、腸管とともに、多くの細菌と共存している組織です。その細菌叢のバランスが崩れることで、う蝕や歯周病といった疾病が発症します。私が専門としてきた歯周病領域では、プラークの量的増加、質的变化が生じ、グラム陰性菌を主体とした細菌が増えることで組織破壊が生じると考えられます。なかでも *Porphyromonas gingivalis* (Pg) は、ポケットから多く検出されることや本菌に対する抗体価が最も高くなることから歯周病原細菌として注目され、歯周病は Pg 感染症として捉えることもできます。一方、局所の感染だけで歯周病が成立するわけではなく、免疫応答、メタボリックシンドロームと呼ばれる糖尿病や肥満、高血圧などの全身的な因子もリスク因子として注目されています。さらに、喫煙やストレス(環境因子)、咬合力の問題(咬合因子)も重要です。

歯周病は糖尿病の第6の合併症と言われるほど、その関連性が注目されています。歯周病原細菌が引き起こす炎症は全身にとって軽微な炎症として影響を与えられ、糖尿病への影響もそういったことが原因だと考えられるようになりました。糖尿病患者は歯周病を発症しやすく重篤であること、血糖コントロールの良否が歯周病の進行に重要であること、歯周病治療により糖尿病が改善する可能性のあることを医師と情報共有する必要があるようです。また、循環器疾患やリウマチ、骨粗鬆症との関連も指摘されていますので、患者さんの全身状態を把握した上で治療に臨む必要があります、そのためには医師の皆様との連携が不可欠になります。今回は、歯周病治療を中心に医科歯科連携をふまえた歯科治療についてお話をさせて頂く予定です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

【講師略歴】

昭和 6 0 年	東京歯科大学卒業	
平成 元年	東京歯科大学 大学院歯学研究科（歯周病学専攻）修了	
平成 2 年	東京歯科大学 歯科保存学第二講座（歯周病学講座）助手	
平成 8 年	東京歯科大学 歯科保存学第二講座（歯周病学講座）講師	
平成 9 年	ワシントン大学 Research Center in Oral Biology, Visiting Assistant Professor	
平成 1 1 年	東京歯科大学 歯科保存学第二講座（歯周病学講座）講師	
平成 1 4 年	慶應義塾大学医学部 歯科・口腔外科学教室教授	
		現在に至る

【MEMO】

【MEMO】